

別紙様式（第7条関係）

令和5年5月20日

報 告 書

島田市議会議長 様

島田市議会議員	清 水 唯 史
島田市議会議員	青 山 真 虎
島田市議会議員	山 本 孝 夫
島田市議会議員	藤 本 善 男
島田市議会議員	村 田 千 鶴 子
島田市議会議員	大 村 泰 史

議会報告会に出席しましたので、次のとおり報告します。

- 1 日時 令和5年5月20日（土）
午後2時00分～午後3時40分
- 2 会場 金谷北地域交流センター 多目的ホール
- 3 参加者数 13人（男性 12人・女性 1人）
- 4 役割
 - （1）受付 全員
 - （2）司会 山本
 - （3）挨拶（概要） 清水
 - （4）報告 厚生教育常任委員会 青山
経済建設常任委員会 大村
総務生活常任委員会 藤本
 - （5）答弁 全員
 - （6）記録 村田

5 報告事項

(1) 議会活動の動向について市民への報告

① 厚生教育常任委員会

当所管は歳出の 44.9%を占めており、市民生活に密着している事業が多い。重点審査として、特に報道にもあった「放課後児童クラブの待機児童」については、当初 160 人であったが、94 人と減少した。しかし、当市が産み育てやすい子育て環境であるには待機児童 0 にしなければならないので、今後も重要課題として取り組んでいく。

また、結婚支援事業は、出生数から見ても平成 29 年は 756 人であったが令和 4 年には 540 人と 200 人も減少しているので、喫緊の課題として他課とも連携して戦略的に取り組む視点が必要である。

② 経済建設常任委員会

重点審査として「勤労者教育資金利子補給金、勤労者住宅資金利子補給金事業」の見直しとともに、市経済への波及効果の期待できる事業に拡大するよう要望していく。また「合併処理浄化槽設置事業」については、設置希望者に対応できる予算額であるかの確認、「公園管理費」については直営から指定管理に代わり委託費の予算が増額になった理由が分かる資料等の提出を求めた。

③ 総務生活常任委員会

重点審査として、特に「地域公共交通計画策定事業」は令和 5 年度が計画策定完了時期となる。国が求めている地域の公共交通のネットワークを作ることに加え、地域における輸送資源を総動員する点など、行政が積極的に取り組み一定の役割を担うように求め、今後も計画策定の進捗を注視し最重要の事業と位置づけた。

その他の報告として、旧金谷中学校跡地を活用した「トレーラーハウスからはじまる街づくり」に関連した土地の貸付減額については、採択されたものの賛否意見があった。また、昨年 5 月に開催した「ごみ減量」をテーマにした議会報告会での市民の皆さんからのご意見を受け、市議会として取り組み、2 月定例会において「ごみ減量化に対する提言書」

を提出した。

④ 報告に対する質疑

Q 結婚支援事業は具体的にどのように行っているのか？

A 個人の婚活活動（ホッと婚等）に支援しているのが現状である。
結婚しない人の課題も洗い出すことが必要であり、外部だけでなく
直営でやっているところもあるので意見を述べていきたい。

6 意見交換：地域テーマ「金谷支所統合後のまちづくりについて」

Q 北支所、南支所を開設して 10 数年である。再度、統合する理由とメリットは何か。また、具体的に職員の減による人件費の削減はどれくらいか？

A 北支所は平成 21 年度、南支所は平成 20 年度に開所された。南支所は待
合スペースや駐車場が狭いことが課題であった。この統合については、
平成 26 年 3 月に策定された島田市総合計画後期基本計画の中で人件費の
削減についても記述されていると思う。具体的に数字は持っていない。

Q 来る 10 月から、金谷南は島田市商工会、金谷北は社会福祉法人愛誠会に
委託するようだが、その予算は計上されているのか？

A 5 月 11 日に運営方針が発表された中では特段説明はなかった。
しかし、当初予算をみると、南支所の管理運営費は令和 4 年 1,503 万円
→令和 5 年 1,774 万円、北支所は令和 4 年 990 万円→令和 5 年 1,441 万
円である。

Q 統合すると、役所機能が遠くなるため、運転免許証を返納後の公共交通
の確保を希望する。

A 先程報告した「地域公共交通計画」の中に、金谷の支所機能統合も踏ま
えてあると思う。

Q 北支所には、新たに事業を行う愛誠会が移転するのか。また、南支所は
島田市商工会が行政機関のスペースに移動するとのことだが、今あると
ころの空きスペースはどうなるのか？

A まだ、具体的な説明はない。

Q 一般市民に対する事前説明会がない。統合する理由やメリットなど、行
政としての考え方を文章にまとめて分かりやすく示してほしい。

A 議会として周知文を各戸に配布するように所管委員会で求める。

7 自由意見

Q 金谷地区生活交流拠点整備事業は、4月から公民館と体育館はPFIに移管された。さらに、地区の課題解決の事業を行うことでその成果に対価が支払われるSIBの手法が取り入れられているが、具体的な内容は何か？

A 行政からの説明はなく、情報は持っていない。

Q この事業は決定したことであるが、事業者がSIBとSCについて実施しているか、議員サイドで厳しくチェックしてほしい。

A しっかりと管理できているか見定めていく。

Q ごみ減量について提出した提言書は、いつ頃に変化が表れるのか？

A 提言書の内容は、今後も引き続き、事業予算の中で審議し点検していく。

Q 金谷地区に下水道が整備されていないのはなぜか？金谷の住民から整備してほしいとの声はないか？

A 下水道処理プラントのある旧島田市に金谷から下水道を接続することは大井川があることで不可能である。そのため、下水道の整備エリア外には、合併処理浄化槽の整備助成を進めている。

8 まとめ（所見）

地域テーマである「金谷支所統合後のまちづくり」については、熱心な意見交換ができたと思う。支所については、数十年前に行政機能を身近でサービスが受けられるようにと設置した経緯がある。高齢化が加速する中で、再度統合することに住民は戸惑いを感じている点や、公共施設において初のPFI手法の導入、さらにソーシャル・インパクト・ボンド、そしてソーシャル・キャピタルの醸成に大いに期待している感が意見から伺えた。まずは、一般住民への丁寧な事前説明会または周知文を配布して、理解を得ることが大事だと思う。

金谷地区生活交流拠点を核に、ハード面ではなくソフト面を重視した、今ま

でと違ったまちづくりの仕組みの構築に向けて、市と事業者と住民との協働の、地域に根差したまちづくりであるように、議会として注視すべき課題であると考え。